

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。 独自の理念をかかげている。利用者様が安心して自分らしく生き生きと暮らせるホーム創りをしている。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 職員の退職等で落ち着いた現状ですが、理念の共有化・実践に向け粘り強く取り組んでいきたい。	○	朝の申し送りにて、ケアプランに添った支援が出来るように少しずつ意識されてきている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。 ぽぶら通信を発行している。	○	地域の方々、ご家族との交流の中で理念の理解を進めていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。 アパートが多いせいか、接触が少ない。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。 町内会の親睦旅行や清掃活動などに職員が参加し、地域の方々との交流を深めている。	○	利用者にも参加出来る機会をより多く作っていく。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。 福祉施設について知りたいという地域の方達に対し、嚥下・口腔ケア・防災等相互に関連するテーマで推進会議を通して知り取り組んで行き、地域に役立つよう少しずつ取り組んでいる。	○	発信する内容を充実し、地域の高齢者の方との交流も町内会を通じて働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価・外部評価が初めてのスタッフが多いが、職員全員で改善項目を認識し、土台作りをしていきたい。</p>	○	<p>○</p> <p>去年の改善項目を始めとして、質の向上となるように努めて行きたい。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>第12回を終え、活動状況・日々の取り組みの内容を報告している。積極的・前向きなご意見を頂いている。</p>	○	<p>○</p> <p>ホームでの日々の暮らしの様子を理解してもらい、地域との交流が広がる様な助言を頂いている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>札幌市が主催する会議や研修に参加している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>スタッフは、理解はしているが支援体制になるまで至っていない。然るべき体制を目指し、研修等に参加し、支援出来るようにしている。</p>	○	<p>○</p> <p>権利擁護や後見制度の研修を受けていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>職員間で話す場はある。</p>	○	<p>○</p> <p>今後も研修に参加し、学ぶ機会を持ち続けていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>十分な話し合いと説明を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見を聞いている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族来所のおり、利用者の近況をお話している。職員の病院同行後の受診結果等については、後日来所のおりか電話でご連絡をしている。	○	お小遣いの使用時、病院受診や体調の様子、買物や職員の異動など必要に応じて面会時に話したり、電話連絡をしたりとしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回ユニット会議を開いており、意見交換や話をする事がある。	○	会議の時以外にも意見が反映できる様にしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者・スタッフで話し合い調整している。ご家族にもご協力を仰ぐ事もある。	○	勤務時間の調整や新規スタッフの調整など必要に応じ行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職者があっても対応が取れる体制にしたい。新しい職員が多い現在は困難であるが利用者様に影響のない配慮をしようとしている。	○	居室担当者を設けているが、それぞれ個々に対応しており、異動や離職による利用者やご家族へのダメージが最小限になるよう気をつけようとしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受ける機会はある。計画を立てできる限り研修の機会を設けたい。	○	研修資料や講習報告書など全職員が閲覧できるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症高齢者グループホーム管理者会議に参加している。今後も参加して可能であれば交流を深めていきたい。	○	研修に参加し、質の向上に取り組んでいきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	一息入れる時間を作るようにしている。職員同士の人間関係を把握するよう努めている。年に一度、会社主催の親睦会を開催している。個々でも何かの折には交流会を開催し親睦を図っていききたい。休み時間ゆっくりできる環境づくりをスタッフと話し合っている。	○	職員の要望や意見を反映し、働きやすい環境を整えようとしている。体調管理には注意をし声掛けしている。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	向上心を持つよう努めている。ケアプランを少しずつ勉強しようとしている。ユニット会議を利用し、勉強会等を行っている。	○	現場や勉強会などを通して取り組もうとしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	会話の中から望んでいる事を聞いたり、訪室し心配事を聴いている。	○	利用後の話しやホームでの生活の様子などを安心してもらえるように伝えている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	満室で新規申し込み受付の経緯はないが、待機者申し込みの際は充分お話を伺い納得されるまで説明している。	○	困っていることや心配事など傾聴に徹し、共感する事で少しでも不安が解消出来るようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早急な対応が必要な相談者には出来る限り可能な限り柔軟な対応を行なうようにしている。	○	可能な限り対応する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人やご家族にホームを見学して頂き、利用を納得されるよう時間をかけて安心感を持ってもらうよう対応している。施設見学にてホームの様子を見て頂いたりしている。	○	利用者が自宅へ外泊したりとしています。ご家族や友人の面会など、可能な限り馴染んで生活出来るようにして頂いています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者には、茶碗拭きや料理の盛り付けなどの出来る事を手伝ってもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の日々の出来事、職員が気付いた事柄を報告している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会に来られたご家族と利用者がゆっくり話せるようにしている。お互いの思い願いをお聞きし、良い関係が築けるよう働き掛けている。	○	御家族が疎遠となっている場合の働きかけをさらに検討し対応していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族や友人の方が来られたり、一緒に外出される利用者もいる。	○	馴染みの友人・知人がホームに来てくれる人は、限られているので継続的な交流が出来るよう働きかけていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	認知の差でトラブルに発展する事を防ぐ為、利用者同士の関係について職員間で情報を共有し、その日の体調や気分の波を把握、見守るようにしている。	○	利用者が互いに理解し合い、仲間意識を深めるよう支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お盆などで帰られた際ホームに立ち寄ってくださっています。ホームの近くに住まわれているご家族が多くおられお付き合いを大切にしていきたい。	○	今後、把握するように努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべくご本人に話をお聞きし、職員間で情報の共有化する。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族からの話、日々の生活の中でこれまでの暮らしの把握をしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録・申し送り等から職員が情報を共有。気付いたことは、すぐに報告する事で対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族と話し合う機会は、限られている。ご本人の意見のもとにご家族や職員と話し合いながら、介護計画を作成している。	○	これからも職員で話し合い意見交換しながら、介護計画を作成していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護記録と照らし合わせながらサービス提供状況を把握し、実践しようとしているが状態の変化や見直す必要があれば、必要に応じ行う方向にある。	○	ご本人やご家族、関係者などから話を聞き、適切なサービス提供が出来るように努めたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の表情・言葉などを介護記録として作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	24時間の医療連携体制を活かし、緊急時に対応出来るようにしている。受診、歯科、皮膚科の訪問医療。訪問美容、病院の受診同行等必要に応じ柔軟な対応が出来るように努めている。	○	必要に応じて、病院受診や買物、送迎支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	散歩の折は、近所の方との挨拶や駅前広場での幼稚園児たちとの交流も見られる。防火訓練の際、消防職員が立会い関わってくれている。推進会議に於いて、町内会の方達に協力をお願いをしている。	○	町内会行事にスタッフは参加し交流している。今後その枠を広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他の大きな支援サービスの利用はしていない。午前の体操時に健口体操(誤嚥防止)や車椅子の方に個別に足の屈伸運動をしたりしている。	○	ご本人やご家族の意向に応じて必要であれば他の機関を利用する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	推進会議において意見交換している。支援専門員の会議にも出席し、地域包括支援センターと協働を図り必要があれば助言をいただきたい。	○	地域包括支援センターへ訪問し、必要があれば相談させて頂き助言をいただきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による往診や訪問看護師による介護記録のチェックなどで日常の健康管理をしている。また、アドバイスも受けている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要な場合には、受診出来るように支援している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションとの契約に基づき看護師と医療機関との連携を密にとれる体制を確保している。週に一度健康管理やケアのアドバイス、往診医への情報提供をいただいている。	○	訪看さんのアドバイスも頂き、利用者の健康管理や医療活用の支援などを行っていききたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	職員が見舞うようにし、ご家族とは電話等にて連絡を取っている。ご家族ともこまめに情報交換しながら、早期退院につなげている。	○	医師や訪問看護師など情報提供をし、早期退院に向けた相談や援助方法など話し合っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	まだ共有にいたっていない。症状が悪化した場合、医療と連携を取りながら対応している。	○	この先、全員で方針を共有していければと思っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化に向かわれている利用者については、かかりつけ医と話し合い、今後の変化、日々の暮らし方について出来る限り対応するが、介護領域内での対応にとどまっている。	○	終末期に向けた十分な支援体制を構築していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの生活が損なわれないように、きめ細かい情報を提供していきたい。ご本人へのダメージを配慮していきたい。</p>	○	<p>ダメージが最小限になるよう話し合い、転居後などにも必要に応じて馴染みのある人の面会や可能な限りの支援をし、ダメージ軽減に努めたい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人ファイル等は、目につきづらい所に保管している。声がけによって利用者の気分を損ねてしまわないよう対応に気をつけている。</p>	○	<p>訪室時は、声掛けを必ず行う。掃除やリネン交換は必ず利用者に説明をし、許可を頂いてから行っている。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>押し付けるのではなく、利用者に飲みたい物を決めていただいて提供をしている。</p>	○	<p>意思表示が難しい方でも表情やしぐさで読み取るようにしている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者に任せて、その人らしい暮らしを支援している。</p>	○	<p>利用者の希望に沿って、出来る限りの対応を心掛けている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入浴後や朝にご自分の髪を整えている。髪のカットについては、月に一度訪問美容があり、ご本人・ご家族の希望に合わせてカット・パーマ・毛染めを行っている。洋服等は、殆どの利用者が自分で選んできている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理・盛り付け・片付けなどは、利用者の出来る範囲で行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつは、決まった物を提供している。家族の差し入れがあった場合には確認後に提供をしている。特に好き嫌いはなく食べられている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、排泄を促している。便秘気味の方には下剤を調整し、ひどくならない様になっている。職員間で話し合い、気持ちよく排泄出来るように支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の希望があれば優先して入浴していただく。声掛けして拒む場合は、無理せずに次の機会にお誘いするようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者の気持ちを尊重し、休みたいときに休めるような環境を作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	楽しみごとの準備は常にしている。強制的にならない様、日常の流れに沿って対応している。利用者のやりたいことを出来る限り支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の了承を得て、ご本人が所持している方がいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、スタッフ同行にて30分を目安に散歩に出かけられるように支援している。人数・業務により実施が難しい日もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得て、外出・外泊されている方がいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族へのお電話を希望されている方には、対応をしている。電話をつながられない方には、ご家族からの希望により、メモ書きを渡し電話番号と用件を記入して戴き、ご家族にお伝えするとお話をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問されてくれる方には、居室やフロアでゆっくりとお話していただけるようにしている。	○	ご家族に利用者の近況をお話する時間を職員全員がもつ事が出来たほうがよいと思う。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていないが、ベットの柵につかまって起き上がる方の為、柵を2本使用している。	○	見守りを重視する事で、身体拘束をしないケアを実践している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関に鍵をかけていない事の認識は常にしている。人体検知センサー音に反応するよう心掛けている。防犯上の問題から、夜間のみ施錠をしている。居室は、鍵をかけないようになっているが、かけている方がいる。	○	居室に鍵をかけている方には、安全の為に鍵をかけなくても良い状況にしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室内で過ごされている場合、身体の不調や状況を確認するために適度な間隔をおいてさりげなく訪室し、様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に応じ、ハサミや針等は、部屋に置いて使用されている。ご本人に管理能力がある場合は、希望に沿うようにしている。	○	薬や洗剤等は、施錠されて薬品庫に保管している。常時使用する洗剤は、利用者の危険を防ぐ為、目の届かないところに保管してその都度使用している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員同士の声掛け連携により、防止する様取り組んでいる。防災訓練等により指導されている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の連絡網・保険証・お金などは、職員も把握している。利用者の身体上の緊急時の初期対応は、職員の集まりの際、話し合い習得している。	○	応急手当の訓練は、定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画に基づいて、定期的に避難訓練を実施している。	○	引き続き避難方法を身に付け、地域の人々の協力が得られるよう働きかけていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒の危険性等があった時はその都度、話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、バイタルチェックを行っている。顔色や表情などに注意をし、異常がないか気をつけている。職員同士の連携を密にし、早期発見に努めるようにしている。異常に気付いたら、速やかに対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のセットは、管理者が行なっている。薬の説明書は、個人ファイルに綴じているので、いつでも見れるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操を行ったり、牛乳を提供している。就寝時に医師から処方された下剤を服用して頂いている。	○	薬で排泄させるのではなく、牛乳・ヨーグルトなどの食品による自然な排泄を促せるようにしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自立の方には、声掛けにより口腔ケアをしていただいている。介助を必要な方には、職員が支援を行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や水分量は、一人ひとり健康管理表に記入しているので、一日の摂取量が確認出来るようになっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防策を掲示している。使い捨てペーパーを使用したり、インフルエンザの予防接種をしている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、調理器具・布巾等の消毒を行い衛生管理に勤めている。冷蔵庫内は、こまめに掃除している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>玄関周りの清掃を心掛けている。プランターに花を植え、花を中心に園芸で楽しんでいただいている。車椅子用スロープの方に向かって窓が開くようになっており、危険なので、ひもで大きく開かない工夫をした。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>共用空間の清掃をし、季節の花や装飾に気をつけている。居間の壁に利用者の書いた絵や折り紙等を貼っている。</p>	○	季節に応じた飾り付けを心掛けている。今後も継続していく
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>畳のスペースにソファがあり、利用者同士が談話をしたりテレビを見たりと思思いに過ごされている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>利用者が使い慣れた物を置いている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>窓を開けて換気を行ったり、空調の入れ替えで温度調節に気をつけている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>車椅子対応のトイレや洗面所になっている。車椅子の方にも安全に使用出来るよう工夫している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室の場所が分かるように入口に名前・写真の入った表札を掛けている。トイレには、目印として花を飾ってある。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外回りには、花を植えている。2Fのベランダに洗濯物を干しに職員同行で行かれる。</p>	○	<p>野菜を植えているが、まだ活用出来ていないので、さらに工夫をしていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない 	ゆっくりお話を聞く時間があまり取れない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ✓③たまにある ④ほとんどない 	業務に追われ、なかなか一緒に過ごす事が出来ない。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 	思い思いに過ごされているが、職員に遠慮して言えないことがある利用者がある。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 	もっと利用者との関わりを増やしていきたい。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ✓③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 	散歩程度、遠出は年に1～2回。病院受診は、職員またはご家族の協力を得て行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 	週一度、医師が往診してくれる。訪問看護師が入居者一人ひとりに会っていないので、会わせるようにしていきたい。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 	気付きノートの内容が職員全員に浸透していない事がある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ✓③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない 	来訪したご家族とゆっくり話し手いる時間を持ってない。いらっしゃった時に短時間でもお話しして、信頼関係を作っていきたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ✓③たまに ④ほとんどない 	ボランティアの方が年に何回が来てくださっている。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ✓③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>会議は夜間に行われており、入居者の出席者も毎回同じなので地域の方に入居されている方を知ってもらうことは難しい。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ✓②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>職員の退職などがあり、信頼関係の構築が課題です。今後は、ユニット会議・個別の話し合いで働きやすい環境を作っていきます。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ✓③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>当事業所のサービス内容を理解してもらっているかどうかは分からない。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ✓②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>新しい職員が多く馴染みの関係を築くには時間がかかるが、来所の際にお話を伺うようにしている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 毎日、体操の中にパタカラ体操を取り入れています。全員が声を出したり、舌を出したり。
 今後は、段階のぼりも取り入れて全員元気に楽しく暮らせるように自分らしさを妨げないケアの取り組みをしたいと思います。
 これまで、不完全だったケアプランの重要性をスタッフそれぞれ認識し、ケアマネジメントの流れを把握するように取り組みたいと思います。